第４回富山市上下水道事業経営審議会（R7.2.20）主な発言

委 員	コメント等
会　長	（まとめ） ・委員の皆さんやオブザーバーのご意見を総合的に考えると、パターン３（下水19.4%）の理解が一番得られていた。（水道もパターン３（27.0%）の理解が一番得られていた。） ・下水でパターン２（47.4%）だとするとそれなりの理由（内部留保が手厚くなるだけではなく、計画の中で更に事業を進めなければいけないなど）が必要ではないかという意見であった。 ・一定期間ごとの改定の検討に向けて、耐震化計画がどうなっているのか等を示していくことが市民等の関心や理解を得られやすいと思う。 ・市民向けや関係者向けに理解が得られやすいようパターン別に説明の準備をするとよい。
Ａ委員	・４年間（算定期間）の耐震化計画に基づき進めていくと、経営状況が苦しくなるため、将来の投資ができなくなるということから内部留保に焦点をあてて３パターンが示されたことと思う。 ・これは企業側の説明で、市民にわかりにくい話であるので、これをどう説明するかを考えていかなければならない。 ・水道事業とは違い、下水道事業の改定の中身は内部留保が多くを占めているので、その点が大きな違いである。
Ｂ委員	・地震や老朽化の問題での事故があり、この対策を計画的に進めていく前提で、値上がりについては、理解が得られると思う。 ・資金がショートしないよう、４年間ぐらいで見直しながら少しづつあげていくとし、なるべく大きな影響がないパターン３（19.4%）で検討いただきたい。 （ただ、老朽化問題の状況によってはパターン２（47.4%）もありうる。）
Ｃ委員	・難しい会計制度等を市民にどう説明していくかが重要であると思う。 ・埼玉県の事故の例が関心事で、そうならないよう対応を行っていくことは必要で、値上がりはやむを得ないと考えるが、なるべく負担が少ないようお願いしたい。
Ｄ委員	・市民に示すとき、値上げによって、どれだけ自分たちの暮らしの安全性が得られるかを示すとよい。 ・パターン３（19.4%）に落ち着くと思われるが、一番低いこのパターンでも、安全性をこれだけ確保できるといったことを示すとよい。 ・少し難しいが「独立採算制」や「雨水公費・汚水私費」についても説明をするとよい。
Ｅ委員	・下水道の事故の防止は大切なことであるので、値上げも必要と思う。 ・安全を強調して市民に理解していただくのがよいと思う。 ・ただ、パターン２（47.4%）であると上げ幅が大きいので、パターン３（19.4%）がよいと思う。 ・一定期間ごとに必要に応じて見直していくことが必要。
Ｆ委員	・現実としては、４年間（算定期間）の耐震化計画を見据え、パターン３（19.4%）が、市民の方には納得しやすいと思われる。 ・長期的な経営を踏まえたとき、パターン２（47.4%）も考えられるのかもしれないが、財務状況は、水道事業よりよいことや、過去の投資の状況を踏まえた算定ということでは説得力が弱い。 ・４年間経過以降の長期的な視点でいえば、今後投資が必要になり、改定が必要になってくるということを議会や市民にメッセージを発信していく必要がある。
Ｇ委員	・水道と下水を同時にあげるとなると市民生活の影響は大きい。 ・水道と下水はそれぞれ別であるので、それぞれの値上げの理由をしっかりと説明をする必要がある。 ・水道と下水を同時に改定する理由が必要となると思う。 ・県内市平均と比べ富山市の上下水道料金は最も低かったが、それぞれパターン３であれば平均程度となるなど、一定程度理解は得られると思う。 ・市民生活への影響は大きいので激変緩和措置を考えていただけるとありがたい。
Ｈ委員	・能登半島地震によって、損傷しているところがあるかもしれないので、再度確認をし安心安全を目指していただきたい。 ・老朽化対策を進めていく必要があるので値上がりは理解できる。